

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：24601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26861903

研究課題名(和文)救急領域における終末期ケアに対する看護師の態度とその実践に関する研究

研究課題名(英文)Nursing practice and nurse's attitude toward end-of-life care in the emergency department

研究代表者

佐竹 陽子(SATAKE, YOKO)

奈良県立医科大学・医学部・助教

研究者番号：90641580

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：救命が成し得ず死の転帰をとる患者やその家族に対する終末期のケアは非常に重要であるが、救命を第一義とする救急領域でのその看護実践は困難であるともいわれる。そこで本研究では、救急領域での終末期ケアのあり方を検討する基礎資料として、救急看護師が終末期ケアを実践するときに抱く葛藤に焦点をあて明らかにした。救急看護師は、救命することを使命としながら多くの患者を看取る現実に葛藤を抱いていた。また患者の尊厳を守るため、望ましいと考えるケアとのはざままで様々な葛藤を抱く一方、生死が繰り返される現実が日常となる自分自身への葛藤も抱いていた。

研究成果の概要(英文)：The end-of-life care for dying patients and their families is important. However, the nursing practice faces difficulty because the first priority for any emergency department is saving lives. This study clarified the conflicts that nursing practice faces. Further, this is a basic document to examine end-of-life care in the emergency department. Nurses providing end-of-life care in the emergency department experienced various conflicts regarding lifesaving and death and, the best practice for a patient's dignity and the reality. While they kept some conflicts to themselves feeling that life and death becomes their dairy routine.

研究分野：臨床看護学

キーワード：救急看護 終末期 葛藤

1. 研究開始当初の背景

救急領域は救命を第一義とするが、その特性上看取りが多い場ともいわれる。救急領域における死別は予期せぬ突然の別れであり、急病のほか、事故や自殺などその背景は多様であり、短期間であれ救命が成し得ず死の転帰をとる患者への看護介入は、遺族のグリーフケアにもつながる重要な側面でもある。

近年、終末期ケアに関する取り組みは国内外を問わず急速に発展してきているが、救急領域については、社会的な関心は高まりつつあるものの、未だその看護介入については明らかにされていないのが現状である。さらに救急領域の文化や特徴から考えると、慢性的な経過をたどる場合に基づいた看護介入をそのまま適用するのは困難であり、環境による制限や、関係を築くことへの躊躇、死にまつわる自分の感情を個人で対処できていないことがその看護実践の障害となるとも報告されており、救急看護師は終末期ケア実践に何らかの葛藤を抱いており、それが結果として患者家族に対する積極的な看護介入を阻んでいると考えた。

そこで、救急看護師が終末期ケアを実践するときの態度とその実践について、葛藤に焦点をあて明らかにすることができれば、救急看護師の抱える葛藤を軽減しより積極的な看護介入が可能になるような支援策を検討することができると考え、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究では、救急看護師の終末期ケアに対する態度とその実践について、救急看護師が抱く葛藤に焦点をあて明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

1) 救急看護師の「役割葛藤」の明確化

救急領域で終末期ケアを実践する看護師の役割葛藤について、Walker and Avant (2005)の手法を参考に概念分析を行った。

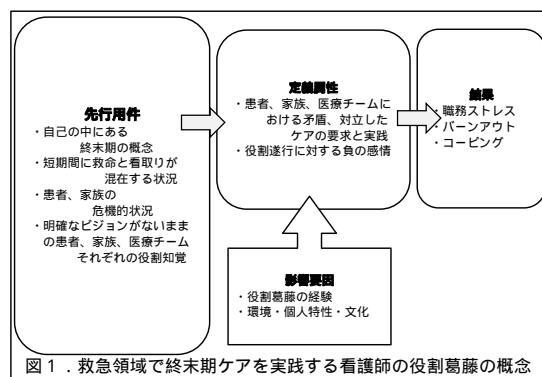
2) 救急領域で終末期ケアを実践する看護師の態度とその実践の構成要素の明確化

救急領域で終末期ケアに携わる看護師が、その看護実践に対してどのような葛藤を抱えているのかを明らかにすることを目的に、三次救急看護に従事する看護師を対象に、半構造化面接を実施した。分析は、質的内容分析 (Graneheim and Lundman, 2004) を用いた。

4. 研究成果

1) 救急看護師が抱く「役割葛藤」の明確化

三次救急領域で終末期ケアを実践する看護師の役割葛藤の概念は、次のように定義された。「急看護師の役割葛藤の定義属性は、患者・家族・看護師間・医療チームにおける矛盾・対立したケアの要求や実践、役割遂行に対して抱く負の感情であり、過去の役割葛藤の経験や、環境、個人特性、文化の影響を受ける。また救急看護師の役割葛藤の先行要件は、自己の中にある終末期の価値や信念、短期間に救命と看取りが混在する状況、患者家族の危機的状況、患者、家族、医療チームそれぞれの認識や判断、思いがあるなかで明確なビジョンがないまま役割を知覚していることを先行要件とする。結果として、ストレスやバーンアウトが生じる一方、看護師としての職業継続意思と高い発達課題達成度を備えた看護師は、問題状況と自分自身の安定に向けて、役割葛藤に効果的に対処している (図1)。



2) 救急領域で終末期ケアを実践する看護師の態度とその実践の構成要素の明確化

対象者は、研究協力施設で救急看護に従事する看護師 11 名(男性 5 名、女性 6 名)、平均年齢 34 歳、平均救急看護経験年数は 8 年であった。

(1) 救急領域において終末期にある患者への整容ケアに対する看護師の認識

救急看護師は整容を【意思表示できない患者の望みを押し量りその人らしい最期を迎えられるようにする】【無念の死の中に家族が救われる一瞬をつくる】【救急看護師として死に立ち会うものの責任を果たす】ケアと捉えていた。また【救急という特殊な環境での多様な背景と家族の反応に戸惑う】中で、整容を【みえないケアへの評価に自分なりの答えを見つける】ものと捉えていた。

三次救急看護師は、整容というケアを終末期にある患者と家族への重要なケアであると捉えていた。しかし同時に、救急という特殊な環境での実践に困難感も抱いており、明確な指針がないなかで試行錯誤しながら終末期ケアを実践する看護師への精神的支援や明確な指針の構築の必要性が示唆された。

(2) 救急領域で終末期ケアを実践する看護師の葛藤

救急領域で終末期ケアを実践する看護師が抱く葛藤は、救命を使命としているにも関わらず死の転帰をとる[限りある命や医学の限界への葛藤]や、終末期ケアに対する[医療者間での価値観の相違で生じる葛藤]、救命することが優先され終末期ケアのための環境が確保されず自分のケアに納得できない[ケア環境に関する葛藤]であった。また、患者の意思が確認できないために家族や医療者が中心となり治療

やケアが決定される現状のもと [患者の意思を第一と考えるために生じる葛藤]、終末期ケアとして自分なりにしたいことがあるが評価もできずこれでよいのかと考え続ける[望ましいケアとの狭間で生じる葛藤]や、繰り返される生死に慣れてくる自分への違和感として[死を敬うことができない自分への葛藤]であった。

救急領域で終末期ケアを実践する看護師が抱く葛藤は、看護師がもつ終末期ケアに対する価値と、救急領域特有の患者、家族、スタッフや医療システムなど終末期ケアを取り巻く状況との対立で生じていると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 3 件)

1) 佐竹陽子 荒尾晴恵：救急領域で終末期ケアを実践する看護師の葛藤，第 35 回日本看護科学学会学術集会，2015 年 12 月 5 日，広島市文化交流会館（広島県広島市）

2) 佐竹陽子 荒尾晴恵：三次救急において終末期にある患者への整容ケアに対する看護師の認識，第 20 回日本緩和医療学会学術集会，2015 年 6 月 19 日，パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

3) Yoko Satake, Harue Arao: Conflicts in Nursing Roles in the Emergency Department: A Concept Analysis. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015, 2/5/2015, Taipei (Taiwan)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐竹陽子 (YOKO SATAKE)
奈良県立医科大学 医学部・助教
研究者番号：90641580

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし